

DSTC 外傷外科手術マニュアル [Web 動画付]

横田順一郎

堺市立病院機構副理事長

今、止血できなければ死につながる。重度外傷の緊急手術ではこのようなシリアスな状況に遭遇する。熟練した外科医でも、経験したことのない状況や見たことのない術野にたじろぐことがある。専門領域でなくとも、救命のためには迅速な止血など外科的介入により、蘇生しなければならない。重度外傷と対峙する外科医にはこれ乗り越える技量と意思決定が求められる。予定手術では事前に手術アプローチ、術式の選択および術後管理まで予習できるが、救急現場では不可能である。遭遇する機会が少ない上に、守備範囲が広く、予定手術とは異なった判断が必要となる。症例を重ね、経験を積むといった修練の難しい領域である。このため臨床経験を補完する手段としてシミュレーション教育が脚光を浴びている。

ここに紹介する『DSTC 外傷外科手術マニュアル』は、重度外傷に対する外科的スキルをウェットラボで

修練する DSTC コースのために書かれた図書である。DSTC コースは、世界的にトップクラスの外傷外科医が直接指導する実践さながらの修練システムである。本書は、コース受講の教材といった程度のもではなく、まさしく重度外傷治療のテキストとして充実した内容が詰まっている。外傷診療に長けた外科医の技能と意思決定が凝縮されているといっても過言ではない。また、Web を介して実践さながらの手術動画を閲覧することができ、コースの受講に至らずとも、本書の熟読と動画の視聴とでかなりの学習効果が期待できる。翻訳をされた先生方の意図が、実はこの点にあるのではないかと推測する。

さて、重度外傷は救急診療の中でも病勢の変化が早く、救命や後遺症の回避のためにはチームアプローチを必要とする代表的な領域である。病院前救護、初期診療、IVR、手術および集中治療へと場面を移すだけ

でなく、ここに多くの職種、診療科が関与する。本書は手術室まで持ち込んだ場面を想定したものである。本書の内容を最大限生かすには初期診療で防ぎ得る死亡を回避し、手術室まで持ち込む技量を備えていなければならない。このため標準化された外傷初期診療の展開が求められ、DSTC では ATLS の受講またはそれに沿った初期診療が推奨されている。わが国では ATLS に相当するものとして JATEC コースがあり、本書の内容を実践するには外傷初期診療ガイドライン JATEC を順守した診療が前提となる。

本書がわが国の外傷外科の進歩と診療の質向上に寄与するものと期待している。

●B5/頁 416/2016 年 09 月

定価：8,000 円＋税

[ISBN978-4-260-02829-5]

医学書院 刊